

## 知事の東日本大震災被災地訪問にかかる報告

平成26年3月24日  
防災対策部

1 日程 平成26年3月19日(水)～20日(木)

### 2 訪問先



- 久慈市  
(2)久慈市役所  
(3)久慈市観光物産協会 等  
(4)もぐらんぴあ(市営水族館)
- 多賀城市  
(1)多賀城市役所  
(6)砂押川
- 仙台市  
(5)荒浜小学校

※ 数字は訪問順

### 3 訪問結果

**3月19日(水)**

#### (1) 多賀城市役所を訪問

面会者：菊地市長 ほか

#### (被災状況)

- ・市は海に面している地域の海岸線が数百mほどで、市民は海近くに住んでいる意識、津波への意識が低かった。
- ・被災地域は交通の要所で、今回の死者188名のうち半数は市外の人である。

#### (復旧・復興状況)

- ・10月に完成する桜木地区の災害公営住宅は、あえて被災地に建設したが、1階部分はピロティ形式にして津波を逃がす工夫をしつつ、津波からは避難することが第一との意識を持ってもらうこととした。
- ・3年を経過し、道路・公園・学校などはほぼ100%復旧したが、下水道の進捗率が44%と低い。



### (意識啓発)

- ・東日本大震災の記録を収集・保存するデジタルアーカイブ(たがじょう見聞憶(けんぶんおく))事業を東北大学等と連携して取り組んでおり、今後の防災・減災対策に役立てることとしている。
- ・災害が発生した時の行動を学んでもらうために、「みんなの防災手帳」を作成し、全世帯に配付した。

3月20日(木)

### (2) 久慈市役所を訪問

面会者:山内市長 ほか

### (被災状況)

- ・浸水区域は市民の半分が居住や通学しているが、津波避難訓練が奏功して死傷者が非常に少なくなった。
- ・歴史的に見て、久慈市には津波は来るが、他の地域に比べて被害は小さい。被害の大きい地域ばかりが報道に取り上げられ、報道されないところは支援が届きにくい。

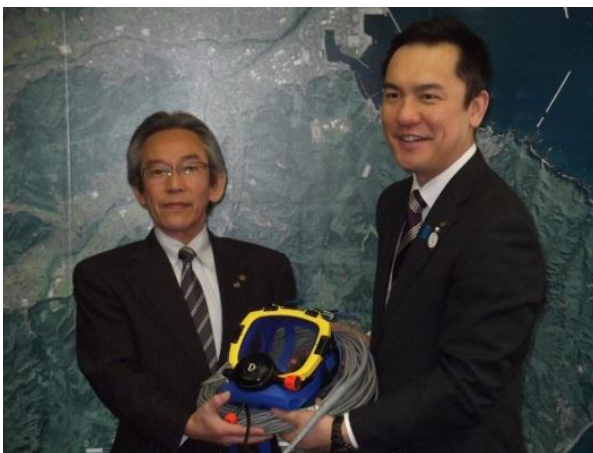


### (復旧・復興状況)

- ・漁船の93%が流出したが、函館市から200隻以上の中古漁船の提供があったため、平成23年の春先には漁が再開できた。そういった自治体の連携が大事。
- ・国から事業のコンセプトは認めてもらったが、資材高騰(1.5~2倍)と人手不足で、予算をオーバーしてしまう。国からは、当初の予算の範囲内でやってほしいと言われるので、内容を変更しないといけなくなる。
- ・久慈市は被災地の中でも先行して事業に着手しているので、新しいハードルにぶつかる。後に続く自治体が進みやすいように、切り開いていきたい。

### (久慈市営水族館「もぐらんぴあ」への支援)

- ・本県及び県内水族館から支援物品等を贈呈した。



フルフェイスマスク

### 【本県から】

- ・冷凍庫(飼育生物の餌を保存) 1台
- ・潜水用資機材(水中ショーで使用)  
フルフェイスマスク(1台)  
水中マイク(1個)  
水中スピーカー(1個)  
送気用ホース(1式)

【県内水族館から】

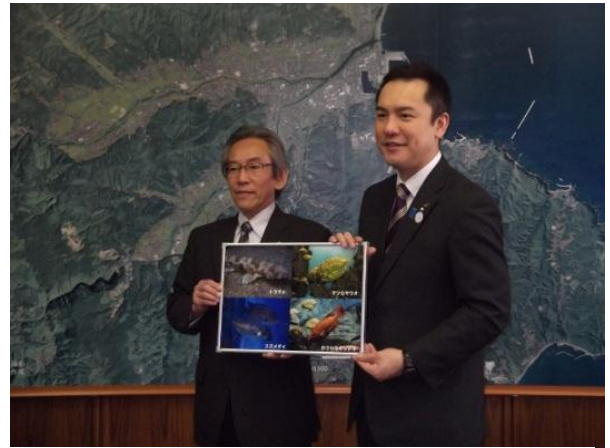
① 鳥羽水族館

- ・魚類  
トラザメ、スズメダイ 等
- ・書籍  
「世界文化生物大図鑑」等 計 79 冊

② 志摩マリンランド

- ・魚類  
マツカサウオ、ホウセキキントキ 等

※ 両水族館による魚類の支援は、平成 26 年度後半に予定されている「もぐらんぴあ」の新施設の開業に合わせて行われる予定で、その時期の飼育匹数が不確定であるため、匹数は未定である。



魚類（パネル）

(3) 久慈市観光関係者等との意見交換

面会者：久慈市観光物産協会中塚事務局長 ほか

(「あまちゃん」効果)

- ・「あまちゃん」の放映で地元の意識が変わった。グッズを作ったり、自主的な盛り上がりが見られた。
- ・北限の海女や秋祭り、小久慈焼(こくじやき)など、大切にしてきた地域の特性が観光で生かされた。



(今後の課題)

- ・海女の後継者を育成するのが課題。最盛期は 100 名ぐらいいたが、今は 20 名弱に減少している。高校生海女も育ててくれてはいるが、いつもここにいて対応してくれる人を育成するのが願い。

(4) 「もぐらんぴあ」を見学

面会者：あくあぷらんつ（指定管理者） 宇部社長

- ・県が贈呈した冷凍庫、鳥羽水族館から贈呈された書籍の展示を見学した。
- ・タレントの「さかなクン」をはじめとする全国からの支援等について説明を受けた。



「さかなクン」からの支援



冷凍庫

※ 「もぐらんぴあ」は、東日本大震災による津波で全壊したため、現在は規模を縮小して他所の仮施設で営業しており、平成26年度後半に、元の立地場所で新施設の完成と営業再開が予定されている。



## 《宮城県内被災地視察》

### (5) 荒浜小学校(仙台市若林区)



平成 23 年 8 月の視察時



今回の視察

- ・知事の前回訪問(平成 23 年 8 月)と比較し、体育館・プールが撤去されていた(本校舎のみ残存)以外は大きな変化はなかった。
- ・学校周辺は、被災前は住宅地や農地だったようだが、荒地のままになっている。

### (6) 砂押川(多賀城市)

- ・江戸時代に開削された運河で、歴史・景観に配慮した災害復旧事業を行っている。

